婦人と新社會

山田わか主筆

四月號

毎月一回一日發行　第二拾六號　大正十一年四月一日發行

大正十一年三月二十三日印刷納本

所謂思想家の社會改造

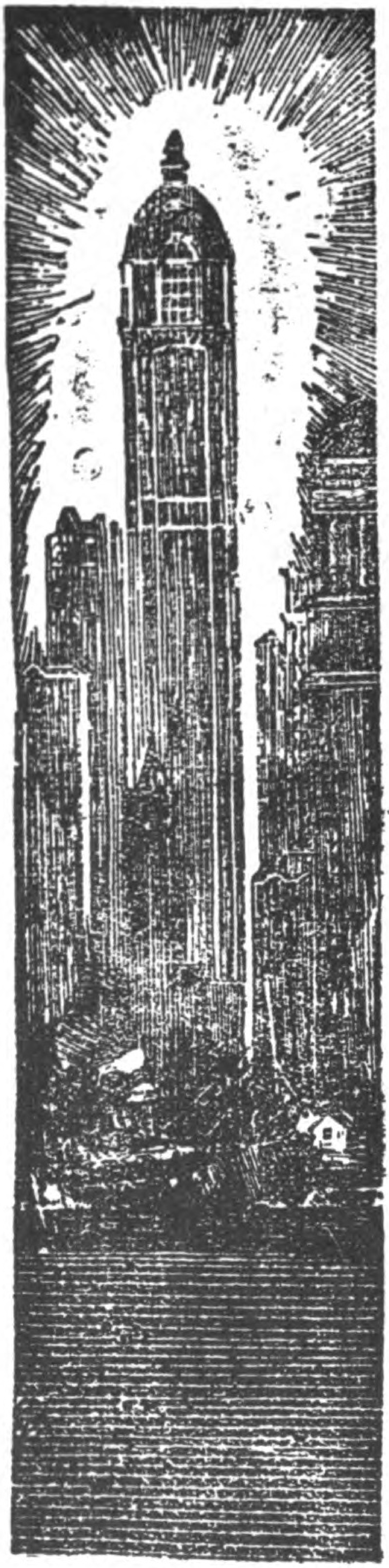
本當の意味の思想家と云ふものは滅多に現れるものではなく、そして、もし、現れても大抵の場合、彼は世間から冷遇される。これに反して所謂思想家なるものは衆愚の人氣によく投ずることが出來ると云つて、エマソンは、「神が此の地球上に所謂思想家なるものを放つた時には注意しなければならない。それは凡てのものに危險が迫つた時である。」と警告してゐます。なぜなら、一般人はもの事を深くは考へてゐない。彼等が考へて居ると思つてゐる時でも、實は、大抵は、唯さう感じて居るのみで、其の上に、感情は其れが不合理であればある程强いからです。

で、ステーブンスンは此の間の消息を四人の所謂革命家に云はせてゐます。其の所謂革命家等は或る晩餐の席で會合しました。彼等は此の社會に一大變化が起らればならぬと云ふことに關しては皆一致してゐます。彼等は申ました。

a「私有財産を廢止しなければならない。」　b「結婚を廢止しなければならない。」
c「宗敎を廢止しなければならない。」　d「勞働を廢止しなければならない。」と云ふと、又

a「實際政治の範圍を出たつてしようがない。先づ第一に、凡ての人間を平等にしなければならない。」b「先づ、第一に、男女兩性が自由でなければならない。」c「先づ、第一に、さうするに付ての方法を發見しなければならない。」a「先づ、第一に、宗敎を殺さなければならない。」b「先づ、第一に、法律を殺さなければならない。」c「先づ、第一に、人間を殺さなければならない。」

これが所謂思想家の社會改造說であります。



家庭の進化

社會制度

今日の社會制度のうちには、家庭、國家、宗教團體、學校、産業と云ふようなものがありますが、其れは皆社會の批准を受け社會に保護されてゐるものです。つまり、社會が認めてよしとしてゐる人々の結合した生活が則ち社會制度です。けれども、又一方には社會の批准も擁護もない集團があります。そして、もし人がさう云ふ集團に

加はるならば、其の人は社會の同情を失ひ、擯斥されます。それ故、昔から、先づ、普通の人は自分の屬する社會がよしとしてゐる方法で集合したり、活動したりしてゐました。同じ習慣が何年も〱續いてゐるうちに、其れが結晶して、そして、一定の形式の社會制度となつたのです。けれども、時代により國によつて其の發達の程度に差があつたのは勿論のことです。

ですから、其等の諸制度の歴史的の糸は隨分遠い過去に迄辿り付けて行くことが出來ます。異つた時代、及び、異つた國民が皆それ〱の特種な環境と社會遺傳に從つて其れ等の諸制度の根本的基礎を造つたのです。實に遺傳と環境が社會進化に於ける二大要素であつて、其れが社會の諸制度の根となつてゐます。以下其れに付て少しく調べて見たいと思ひます。

制度としての家庭

第一義の、そして、最も重用な社會制度は家庭です。ですから、社會の單位と云は

れるものは個人よりも、むしろ、家庭です。社會に於ける家庭は、丁度、生物學に於ける細胞です。生物學に於ては細胞が凡ての有機體の發達の核であるように、社會の發達の核が家庭です。又、家庭は小社會とも見られます。家庭には男女兩性があつて生殖は營まれるし、又、老年幼年者をも含有して居るものですから、凡ての社會關係が既でに其處に存在してゐます。ですから、私共は家庭を社會の第一義的の形式と云ふのです。他の社會制度は皆此處から發達したものです。

家庭は最初の產業社會でありました。夫は狩獵に行き、妻は家に居て食物を用意し衣類を造つたのでした。今日に於ても、新開地へ行くならば、各家庭は實際上獨立の經濟單位です。なぜなら、生活の必要品の殆んど凡てを各々の家庭で造つて行きます。宗教生活も家庭を中心としてゐました。家長制度に於ける父は第一の高僧でありました。そして、竈（かまど）が禮拜場でありました。子供の敎育は母の膝の上で始められました。ですから、學校制度は家庭が既でに始めてゐた仕事の繼續です、又、國家と云ひ政府

と云ひ、皆家庭制度を延長したものです。其處で家長なる者が彼の一家の各員の行爲に關しては國家に對し責任を擔つて居たのです。

家庭の第一義的作用

家庭の第一義的作用は種族の繼續です。昔の產業的作用は家庭から工場へ引き移されてしまいましたし、そして、學校やいろ／＼の宗敎團體が家庭の敎育的及び、宗敎的生活の代りをしてゐますが、併し家庭の第一義的、則ち生物學的の作用は社會にどんな變化があつても決して變りません。實に、家庭は新しい社會員を創造し成長させる社會制度です。種族の生命を代々傳へて行く此の第一義的の家庭の作用は人間種族の有る限り永久です。

家庭の第二義的作用

家庭の第二義的の作用は社會的の財產を次代に傳へて行くことです。そして、その社會的財產には精神的財產と物質的財產とがあります。物質的產財とは勿論有形な富

を云ふので、精神的財産と云ふのは國語、宗教、政府の理想と云ふようなものを云ふのです、それ等の社會的財産を傳送することを社會化の過程と云ひますが、家庭に於て生れた子供を社會的生活に適應するように養成することが家庭の第二義的の作用です。要するに最も廣い意味に於ての國民の養成と云ふことです。けれども、家庭に於ける此の義務は今はだん／＼忘れられようとして居ます。そして、學校や宗教團體が補助しなければ由々しい危險に陥りそうになつてゐます。

家庭の發達

最下級な動物には雌雄と云ふものがなく、分裂繁殖によつて種族が繼續されてゐます。そして、少し高等になつて來るに從つて性の別がはつきりして來ますが、それでも猶兩性の結合は唯一時的であつて、生殖のみが目的です。從つて、生みッぱなしで子の世話をしようとはしません。ですから、種の繼續は機會に任せられてあります。其の代り數は莫大なものであつて、先づどんな境遇に出かはしても幾分かは生き殘つ

て種は濫殺されるようになつてゐます。此の例は魚類によつて最もよく示されてゐます。鳥の生活になると餘程發達して來て、其の生活は家庭の形式を備へて來ます。第一、卵が孵へる迄は親鳥の注意が必要となつてゐます。そして、雌雄の同棲も一季節の間は續きます。

哺乳動物になると子に乳を呑ませます。從つて、注意の度も多くなるし、時間も長くかゝるし、雌は餘程骨が折れるようになります。其處で、雄が雌の食物を運んだり母子を保護したりします。大抵の場合、子が成長してしまう迄雌雄は一所に生活してゐます。これが最初の共同生活で、此處から家庭と云ふものが發達しました。ですから、家庭は幼兒を保護するための自然の工夫であると見てよいのです。

動物がより高等になるに從つて、子供の時期がより長くなり、兩親の共同生活がより長くなつて來ます。人間に近い高等動物、たとへば、ゴリラや猿の如きは一夫一婦の生活が普通となつてゐます。ですから、比較的永久的な家庭を造つてゐます。實に

一夫一婦の家庭制度は人間以前の動物のうちに迹跡付けることが出來るのです。

初期の人間の兩性關係は非常に混雜してゐて、はつきりした家庭の形式は備つて居なかつたと或る社會學者は云つてゐますが、併し高等動物の生活に徵して見ても、人間は矢張り、元始時代から一夫一婦の家庭を造つて居たように思へます。又、今日の最も元始的な生活をしてゐる野蠻人でも一夫一婦制をとつて比較的强固な家庭生活をしてゐます。科學的に確立された其れ等の理由から、私共は元始時代の人間も可なりに永久的に確定した一夫一婦の家庭を造つて居たと信ずることが出來ます。

家庭の形式

米國の土人、イロコイ族のような社會を研究して、母系制度と云ふものが發見されました。つまり、一家の權力や財產が母を通して子に傳はるのです。子供は母の名を襲ひ、母の家に屬してゐました。で、酋長は自分の權力を自身の子息に讓るのでなく姉の子息、つまり孫に讓つてゐました。母に重きを置く此の形式が母系組織です。で、

これは大抵の社會が一度は必ず通過して來た制度の代表的なものです。
　そして此の母系組織は、父子關係がぼんやりしてゐるに反して、母子關係が明らかであつた時代に始まつたものです。父と子の關係は時によると曖昧であるに反して、母と子の關係は明瞭であつたからです。其の頃の女の位置が高かつたことは勿論です。
　母系組織が父系組織に移り、男の子が相續するようになり、夫、及び父が最上權を持つようになつたに付いては多くの原因がありました。戰爭は、他種族の女を捕獲して妻にすると云ふ習慣を造りました。其の次には妻を買ふと云ふ、捕獲するよりは餘程平和的な習慣が出來ました。現存する野蠻人のうちでは今でも妻を買ふと云ふことが普通で、もし、買はれた其の妻に子供が無い場合ひ、又は、妻の勞働力が貧弱である場合ひには賣主なる父から一度拂つた金を取り返へして、そして、妻を父に返へすと云ふ習慣もありました。
　父の手から娘を買つて妻にすると云ふ例は舊約全書のうちによく現れて居ります。

ヤコブはラッチエルを得ようとして彼女の父のために七年間の勤勞をしてゐます。戰爭が女を捕獲すると云ふ習慣を造り、次には女を賣買すると云ふ習慣が出來た外に、もう一ッ女の位置を低くした狀態は牧場生活だつたと云はれてゐます。此の生活は移り歩く範圍が廣いので女は生家を出た後には、もう生家の保護を受けることが出來なくなつたからです。

家長制度に於ては、父が妻子に對して絕對の權力を持つて居ました。生死の權力迄も持つて居たのです。けれども、人類の進步は、父に其の權力を附與した家庭の形式を破壞して、そして、婦人と子供の位置を高くしました。

異族結婚と同族結婚

異族結婚とは、男が他種族の娘を求めて妻とする習慣です。これに反して、同族結婚とは自分の屬する種族の娘と結婚するのが習慣です。けれども、生物學上の理由から同族結婚には度々有害なことが起りました。恐らく、自然淘汰は異族結婚に左祖し

て居るのでせう。そして此の異族結婚が同族結婚よりも、より普通な習慣となりました。けれども、此の異族結婚は他種族の女を捕獲する習慣から來てゐるようです。一度は他種族の女を捕獲すると云ふのが一般でありましたから。そして、今日の或る地方に於ける結婚の儀式のうちには、夫と定められた男が花嫁を設つて行くかたちがあります。

複數結婚

複數結婚制度は三ツの形式の家庭を造りました。つまり、妻が複數である場合ひ、夫が複數である場合ひ、或ひは又、兩方が複數である場合ひです。たとへば、布哇の或る地方では、此の兩方の複數結婚が行はれてゐます。男の幾人かが(大抵は兄弟)女の幾人かと(大抵は姉妹)結婚します。そして其の男女の一群の各々の男が各々の女の夫であるのです。しかも、其の一家族の結束は固く、其の家庭内では其の時々の氣分に從つて、どの男とどの女とが關係しても其れは神聖なものとされてゐます。

一妻多夫

一妻多夫制度は例の少ないものですが、それでも、前述の多妻多夫よりも澤山あります。これは幾人かの男が（大抵は兄弟）一人の女に結婚するのです。此の好き例は西藏にあります。そして、さう云ふ形式の生活がどうして出來たかと云ふと此の地方の土地は不毛で食物が少ないために、人口を殖やさない工夫だと云ふことです。それから、もう一ッの理由は女の子が生れると直ぐ殺してしまふ習慣があつたゝめに、女の數が男と比例して非常に少ないからだと云はれてゐます。

一夫多妻

一夫多妻の制度は文字通り、一人の男が幾人かの妻を持つことです。此の種類の家庭は經濟上の餘裕が必要です。元始時代人には經濟上の餘裕が無かつたゝめに、こう云ふ形式の家庭は到底不可能だつたのです。實に、今日に於て、所謂一夫多妻は富者階級によつて行はれます。土耳古や埃及に於ける回々教は一夫多妻を許して居ますが

併し、全人口のやうやく五分弱しか其れを實行してゐません。と云ふのは兩性の數がほぼ一致して居るので――戰爭が男子の數を減じて行く場合を除いては――一夫多妻は一般には實行しようとしても出來ないのです。

妻を掠奪したり、買つたりしたことが、確かに一夫多妻主義を促しましたが、家長制度に於て、重要視された相續人として實子を欲求したことも亦一夫多妻主義の發達を刺戟しました。

一夫一婦

一夫一婦制度は凡ての時代、凡ての國に於て行はれた結婚の形式であります。他の結婚の形式、たとへば、複數結婚、一妻多夫、・一夫多妻は地方的であつたり、又は一時の變則的形式であつたりしたのに反して、一夫一婦は普遍的でありました。そして他の形式は皆此の一夫一婦制から逸脱したものです。又、文明國に於ても、此の一夫一婦が普通です。且つ又、これが今日に於ては社會の批准を受けてゐる結婚の形式で

す。

道德的に見ることから離れても、此の一夫一婦制度が他の制度に優つたものであると云ふことは社會學上いくつかの理由があります。他の形式よりも一夫一婦制に於ては、第一、子供の養育が行きとゞきます。嬰兒の死亡率は一夫一婦制の場合ひが最も少ないと云はれてゐます。

又、家庭の第二義的の作用、則ち、個人を社會化する作用は一夫一婦の家庭に於て最も完全です。一妻多夫又は一夫多妻の家庭に於て、必ず起る嫉妬の代りに、一夫一婦の家庭に於ては最も高尙な愛情の發露となり、其れが利他主義の養成となります。歷史に於て一夫一婦の家庭制度と高等文明の發達とが相關聯してゐたと云ふことは決して偶然の出來事ではなかつたのです。實に、一夫一婦の美しい愛情が利他主義を養成し、共同的精神を發達させ、文明を促進させたのです。圓滿であつて、健康的な家庭生活が、直ちに平和な健全な國民生活でありますから。

初期の羅馬が道徳的に健全で、國家として强國であつたことは、羅馬人の家庭生活が道徳的で健固であつたからです。けれども、後の羅馬は奢りと惡徳が盛んになり、家庭の破壞となりました、同時に羅馬帝國の沒落となりました。ですから、私共は、離婚數と嬰兒死亡率の增加、及び出產率の減退によつて、一國の衰頽を讀むことが出來るのであります。

草岡列二

あれこれと我子の爲に選ぶ名も
　ひとへに親の心づくしぞ
放つまじく握れるものゝある如き
　小さき堅き嬰兒の拳よ



サンガー夫人の非科學的態度

制度の改革、法律の改正と云ふことに付ての議論や運動が非常に盛んであるにも拘らず、人間には社會的な性質の者と非社會的な性質の者とがあることに付て、誰も何とも云はないのが私は不思議でなりません。制度の改革や法律の改正を私は無用と云ふのではありませんが、併し、現存の諸制度にした處が、其の制度を運用する人の性質によつて、其れが社會的にもなり非社會的にもなると云ふ處に、識者と云はれる人々が余まりに無關心で居られるのが私には不思議なのです。どんなに完全な制度が設定された處が、其の制度を運用する人が非社會な人間、つまり人情のない人であるならば、其處から、又、新しい社會問題が起つて來るではありませんか。

たとへば、社會主義的な思想を持つて居る人は、生產の要具を社會が管理すれば、つまり、共產主義の形式にすれば、直ちに、一般人民の要求が滿たされるように思ひ込んでゐます。つまり、共產主義の管理にすれば、人と人との間に必ず共同的精神が生れるもの丶ように云つて、そして一途に、資本主義の產業組織が今日のあらゆる禍を釀してゐるように云つてゐます。成程、現代の資本主義制度の經濟は確かに非社會的の禍を惹起しました。そして、其の禍は社會の廣い範圍に波つてゐます。けれども其れが資本主義的產業組織の必然の結果であると云ふことは出來ません。

如何なる制度でも組織でも、其れが社會的になり、又は非社會的になるのは、其れを運用する人の人生觀によつて定まるのです。けれども、彼等は其處を考へません。現在の產業組織が倒れさへすれば、其の中に働いてゐる非社會的の傾向も共に消滅してしまうように考へてゐます。

併し、其れは間違つてゐます。何故なら、資本主義と云ふ產業制度は人間の力の延

具です。これを分り易いように云ふならば、諸制度は、いはゞ人間の手のやうなものです。私共の手道具、たとへば、箸だの、庖丁だの、鋏鋸だの、其の他あらゆる諸道具は皆私共の手の延長です。もし、又、他人の手でも私共の命令に從つて、仕事をするならば、其の手は私共の手の延長です、ですから、西洋でも手傳人を『手』と申ますし、我が國でも働く人が少ない時には『手が少ない』とか『手がないので』とか申ます。

こういう意味で、社會の諸制度は個人の便宜を計るために存在するものでありますから、其れは個人の道具、則ち、手の延長と見ることが出來るのです。して見たならば、個人の手、又は、手の延長である諸道具が社會的に使用されるのも非社會的に用いられるのも其の手、又は、道具の持主の性質次第です。手、又は、道具の特主が非社會的な不人情な人であるならば、其の手や道具をどんな風に造り直した處が、其の手其の道具が社會的に、つまり、社會の幸福を增進するようには使用されません。ですから、人間の性質が變らない以上は、云ひかへれば、人間の本能が精選されない以上は

現存の制限が取り去られて、露骨な本能が運用する社會主義的產業制度は今迄よりも一層非社會的になる、一層不公平になるのは當然なことです。

產業組織は其れが如何なる組織にしろ、手の延長、即ち、機械です。機械でありますから、其れ自身は社會的でも非社會的でもありません。あらゆる禍の造り主は、決して、單なる機械である組織ではなく、人間の無制限なる本能其れ自身であります。

產兒制限問題も、亦、其れと同じ理窟です。無制限な本能の跋扈が禍の源であることを忘れて、唯、其の結果をのみ論ずる處に大きな謬謬があります。

無制限に無責任に性慾本能の跳梁を許すことによつて、益々、人格を低下せしむると云ふ處に人は思ひ至りません。つまり、產兒制限論は禍の起る根を其のまゝにして置いて結果なる子供のみを問題にする處が如何にも淺見です。國民の人格が高上し、性慾本能が精選され、家庭生活が健全であつて、始めて各人の生活は平和で幸福で、

國家が强固でありますが、性慾本能の跳梁を肯定し、機械的に產兒を制限するのは問題の本末を顚倒したもの、從つて、有害なものであります。此の問題に付ては、本誌前號にも卑見を載せて置きましたが、もう一度云ひ足りなかつた處を付け加へます。マルサスの人口論を基礎にした意見に付ては前號に書きましたから此處には略します。

生物學上の見地からの意見によると、自然の進步の道は、無限な生殖的本能が阻止されると云ふ進化の過程を通して、一切の生物の子の數は累進的に減じて來て居る。で、數の減少は生存上遙かに多くの好機會を得ることになり、性質の改善となると云ふのです。そして、であるから產兒制限は矢張り其の進化の過程の繼續であると云ひそして、其れは、自然界に於ては盲目的に制限することの代りに人間界に於ては有識にするのである。故に產兒制限は全く自然であると云ふのです。

併し、人間が高尙になつて、自分が精神的に愛しても居ない者によつて、肉慾を滿たすことを苦痛とするようになつた結果、又は愛する婦人の負擔を思ふて抑制の結果

子供の數が少ないならば、其れこそ本當の進歩でありますが、さうではなく、本能の衝動のまゝの行爲をして、そして、其の結果は避けようとする態度は決して進歩ではなく、却つて墮落であります。人間が進歩した向上したと云ふのはどう云ふことを云ふのですか？ 人間の動物性則ち本能が道理、道德、及び、宗教の制裁を受けたゝけづつ精選され、進歩向上して行くのです。

であるのに、産兒制限は人間の本能の衝動を無限に行使しようとする。つまり、人間の人間たる精神の力によつて肉體を支配しようとする、其の精神の力を無視するのですから、人間を動物的に低下させるものです。

次には、又、人道主義の社會改革の見地からです。此の說は勞働階級に多くの共鳴者を得る民主々義的な議論です。誰でも勞働者の家庭を知つて居るものは、子供の多いことによつて父親は經濟上の負擔に苦しみ母親は疲勞しきつて不健康に陷り、子供は營養不良の結果夭折したり、不良性を帶びたりして社會全體の上に惡影響を及ぼす

から、勞働者自身の幸福及び社會の善のために、產兒を制限しなければならないと云ふのです。

勞働者自身の、殊に、婦人自身の發達のために子供の數の多いことは禍であると云ふのですが、これも道德的抑制によつて子供の數が減じてこそ自他の幸福の增進となりますが、本能の衝動を無制限にして其の結果に責任がないと云ふことになれば性慾の亂用は今より一層甚しくなつて、風紀頹廢の害毒は子澤山の害毒よりも一層甚しくなりませう。

此の外に、純粹な醫學上の見地から、母體が姙娠に耐へない場合ひの避姙を云々して產兒制限論を云々するものがありますが、これは、とり上げて論ずる程の價値はありません。何故なら、姙娠するように出來てゐる體が其れに耐へられないと云ふのは病人です。病人は醫者の手に任せて置くべきで、何も病人を標準に健全な人の生活を干渉する必要は全然ありません。

最後に、優生學の見地からの產兒制限肯定論があります。これは子供の數を減じて優良な子供を造ると云ふのでありますが、そして、優生學者は「產兒を制限することによつて急場の問題を解決するのみならず、人種の向上となる」と云ふのでありますが、さて、子供の數の少ないことが果して子供を優良にするでせうか？　五人の兄弟を持つ子供よりも一人子の方が必ず優良な人間に成り得ると云ふ、保證が何處にあるでせう。

五人よりも一人の方が確にうまい食物を澤山に與へることが出來ませう。美服を着せることが出來ませう。けれども、其れが人間を優良にする一切でせうか？　さうではありません。其れは却つて子供を遊惰に導いてのらくら者にすると云ふのが今日迄に私共が目擊した實狀です。又、五人六人の子供があつては小學校迄しかやれないものが一人か二人ならば大學迄も卒業させられるかも知れないと云ふ人があります。さう云ふ場合ひもあるかも知れません。けれども、多くの場合ひ、子供を最高學府迄や

るような親は親の財政上の都合許りでなく、親の又は本人の學問に對する態度によつて大抵は定められてゐます。巨萬の富を積んでゐても子供を大學へ送らない親もあれば、又、質屋通ひをしても大學へ通つたり通はせたりする人もあります。のみならず高等な學問をすれば必ず優良な人間になると定まつたものでないことは今日迄に余りに多くの實例があります。其の上に優良な子供を生み得る兩親が避姙をして居るために人種を向上させ得る優良な芽が生を受けずに居ることによつて人種が損失してゐると云ふこともありませう。ですから、優生學上の避姙はあの場合ひ、此の場合ひと特種な場合ひには應用してよいが、一般的には無用、否、却つて有害であります。

婦人の解放を絶叫する人は、育兒が婦人自身の個性の發達に邪魔になると云つて、國立育兒院を設立し集合的に子供を育てるべきだと主張しますが、これは隨分矛盾した考へです。なぜなら、集合的育兒法は子供の個性を全く抹殺してしまうものです。母親の個性は尊重しなければならないが、子供の個性は無視してもよいと云ふ理論が

どうして立ちませうか？　子供は自分の延長であるから自分の個性を貴ぶならば子供の個性を尊重しなければならない。そして、子供の個性を發達させるには其の子の生れた各々の家庭でなければ不可能事です。婦人を解放するための産兒制限論も矢張りこれと同じ矛盾に陥つてゐます。

子供は自己の延長です。子供が多いのは其れだけ自己が大きくなつたことです。伸すだけ伸し得た自己を全々完全に發育させるために障害があるならば其の障害を打ち破つて進むべきです。進む處迄進んで行つて障害があつたら其れを打ち破つて、又は乘り越へて進んで行くと云ふ處に勇氣があり進歩があるのです。力が沸き、生き甲斐があるのです。

であるのに、一寸した障害に出逢ふと直ぐひつ返へして來たり、又は、其の障害があるかどうかすらも分らない先きに有るかも知れないと云つて躊躇して自己の延長の先きを立ち切る用意をしようとすることは何と云ふ卑怯な態度であるでせう。

要するに、產兒制限肯定論は、人間の弱點を改造し向上させることの代りに、其の弱點を益々弱くして行かうとするものです。人間の發達を計る代りに益々放縱に導かうとするものです。經濟上の壓迫がどうの、個性の發達がどうのと尤もらしい言葉が並べられますが、つまる處、其れは放縱を敢へてするための申わけに過ぎないのです。

ピアノを習ふ時に、練習が進めば進む度毎に、又新しい彈き方が出た來て練習者を苦しめます。其の時に練習者が怠けたがる本態の叫び『あゝ苦しい、めんどうくさい』と云ふ聲に從つて練習を止めてしまうならば彼は永久に音樂者となることは出來ません。けれども、其の練習者が自己發達のため音樂道のためと云ふ良心の叫びに從つて怠けたがる本能の叫びを退けることによつて彼は有益な音樂者となります。音樂の道は進められます。人間の性的生活も其れと同じ道理で、苦しいことや困難なことに出逢ふ度毎に、其の苦しいことや困難なことにヘコタレて後退りすることの代りに良心

の命ずる處に從つて己れの義務を充分に果して行くことによつて個人としての精神上の發達、社會の幸福の增進があるのです。

野蠻人的人間の戀愛は複數です。けれども、精神の發達した精選された人間の戀愛は單數になります。其の結果一夫一婦の結婚となります。自ら性慾は制限されて子供の數は少なくなります。けれども、人間が野蠻的で精神的愛がなくとも性的關係が成立する。其處で欲しくもない子供が出來ては困ると云ふことになります。ですから、産兒制限の必要が叫ばれるのは、人間がまだ野蠻的であると云ふ裏書きです。

文明人を以て自ら任じて居る人々は其の聲を聞いて恥しいとは思はないでせうか？

社會的の禍の多くは、人間の手の延長なる機械、則ち諸制度が釀すのではなく、人間の利己的な本能から來て居ることに人が氣付かずに居ると同じように、子供其のものゝ數よりも性慾的本能の跋扈の方がより有害であると云ふ處に人は氣付いて居ません。原因と結果とを取り違へ與へられた生命を如何にせばより健全に發育させようか

と云ふ處を考へずに、徒らに生命の發生を阻止しようとする傾向は人種的自殺の傾向であります。

私共は、科學を尊重致しますが、併し、科學其のものよりも、科學を研究し、人類のために其れを利用しようとする科學者の態度を一層尊重します。なぜなら、科學其のものは其れを利用する人の如何によつて社會の利益ともなれば害にもなります。たとへば、醫學上大きな發見があつたとします。其の時に、もし、其れを發見した人が人情に厚い人であるならば其の發見は直ちに人類社會の幸福になりますが、もし、彼が不人情な自己の利益しか考へない人であるならば彼は自己の懐を肥やすために其れを惡用するかも知れません。其の時には其の醫學上の發見は社會のためには却つて禍ひです。もし、又其の發見の結果を應用しての治療を受けるに余りに高價な報酬を要求されるならば、一般人は其の發見の利益を分前して貰ふことは出來ないと云ふこと

になります。ですから、私共は科學者の發見其のものよりも、科學者の科學的態度によつて多大の利益を得ることになります。此の科學的の態度と云ふことに付いて一例をお話して見ます。

英國の大科學者ラッセル・ウォーレスはダーウィンとは全然別に進化論を研究して、そして、ダーウィンと同じ結論に到着しました。けれども、ダーウィンが自分よりも早く其の研究に着手して、そして、まだ其の結論を發表する運びに至らないと云ふことを聞いて、自分の結論を發表することを中止してダーウィンが發表する迄待つて居ました。其の上に、自分の學説が決してダーウィンを模倣したものではないにも拘らず、ダーウィンに名譽を讓るために自分の學説をダーウィンセオリーと云つてゐました。進化論は偉大なる學説です。そして、其れが人類の進歩に貢献した處も偉大です。けれども、進化論其のものよりもウォーレスの科學的態度、則ち、人情は猶一層偉大です。なぜなら、進化論其のものは唯智識の増加であるに反して、ウォーレスの科

學的態度、則ち人情は犠牲の増加です。

處で、サンガー夫人の避姙論は、其の科學的の態度は愚か、科學的の判決すらも無くて、唯、單なる獨斷です。しかも無恥の獨斷です。其の獨斷が人間の弱點によく投じて、夫人は新聞紙上に名を得ました。新聞紙を通じて、産兒制限運動の宣傳者となりました。分りきつた議論を露骨に不人情に話すことによつて賣名の目的を達しました。

夫人の議論が科學的でないと云ふ證據は問題の半分を無視してゐる處にあります。つまり、人間には人情があります。まだ見ぬ子に對する欲求があります。其の點を無視して人間性の不人情な點計りを材料として夫人は人間全體を論斷しようとしました。其の態度が非科學的である以上に非科學的であります。社會が健全である場合ひならば夫人の議論は全然無視してよいものでありますが、性慾道德が墮落した空氣に投じて非常な繁殖力を持つて居るので、本誌前號に書いたのみならず、又本號にも書かなければならなくなりました。



高等女學校の卒業生に與ふ

春の若芽がスク／＼と伸びるように、スラ／＼と美しく成長なさつたと同時にいよ／＼女學校を卒業なさらうとする諸嬢に何はともあれ御祝詞を申上げればなりません。限りなく温い御兩親の愛の庇護のもとに何等の故障もなく學業をお續けになられたことは御本人並に御兩親の幸福ばかりでなく、日本國民全體の幸福の基礎でありますから。

處で、皆様よりも年上であり、世の中の辛酸を多く經驗して居る私は御喜びを申上げると同時に、皆様の將來の幸福のため、ひいては女性全體の利益のため一言の御注意を申上げればなりません。もし、私の申上げることが、唯、一片の老婆心であつて、聰明な諸嬢のとツくに御承知のことであつたならば却つて私共女性全體のため並びに國家のため誠に幸福なことで御座います。

其の御注意の言葉と云ふのは外でもありません「高等女學校を卒業したから、もう、自分の勉強時代は終つた。」と決してお考へになつてはならないと云ふことであります。人の一生と云ふ實際生活の立場から考へても、又は、智力の開發と云ふ智的生活の立場から考へても、女學校を出たと云ふことは、丁度學校生活時代に於て、幼稚園を出るのと同じ程度のものであると云ふことを承知して頂きたいと思ふのです。

と云つて、「女學校を出たことが幼稚園を出るのと同じなら、女學校なんてつまらないものだ」などとお考へになつてはなりません。幼稚園時代の子供には幼稚

園が必要であるのと同じように、女學校時代の諸嬢にも、女學校が必要であることは申迄もありません。けれども、女學校時代の諸嬢には幼稚園の子供のすることが幼稚に見えると同じように　實生活を本當に味はつた者の目には女學校ですることは人間生活の幼稚園のやうに見ゆるのです。ですから「女學校を出たからもう勉強しなくてもよい、修業はしてしまつた。」とお考へになつては大變な間違ひであると申上げたいのです。幼稚園が學校生活に入る單なる準備であると同じように、女學校は人間生活に入る、又は、本當に學問をする準備であると云ふことを承知してゐて頂きたいのです。

　こんなことは、私が今更申上げる迄もなく、諸嬢が既に御承知であらうとも考へますが、併し、今日迄の高等女學校卒業生のうちには、私をして前述のようなことを云はせる程、餘まりに其の位置を了解して居ない方が澤山ありました。卒業式が濟むと同時に、「もう書物には用はない。自分の修業は終つた。さア、これからおしやれに取りかゝらう。」と云ふように、せツきり買ツきり身なりを飾ることに浮身をやつして居なさいました。

　諸嬢は、諸嬢の同性である婦人の社會上の位置、家庭に於ける其の狀態をお考へになつて見なければなりません。婦人が家庭に於ては男子に便利な一個の道具であり、社會上法律上に於ては低能者と同等に取り扱はれて居るのは何故でせう。勿論、それにはいろ〱の原因があるとしても、其の主なる原因は一般婦人自身に一個の道具として又は、低能者としての價値だけしかないからです。多くの女性が男子の道具即ち奴隷の位置に滿足して居て、男子の歡心を買ふことが女性の生活の全部であるかのような情けない態度で居るからです。

　さう云ふ狀態に對抗して婦人運動が起つて以來何十年かが經過しました。そして、所謂女權主義者の家庭的に職業的に人格的に婦人を解放しようとする運動は幾分か成功しました。けれども、其の女權主義の主張する所謂婦人の解放なるものゝ大部分は男子の生活の單なる模倣でありましたから、結局、其れは婦人自身

のためにも社會のためにも男子のためにも不都合こそ生ずれ、決して利益でも幸福でもない。婦人には矢張り女性の特質と女性獨特の使命があると云ふ處迄、今日の婦人論は進んで來て、一時はノラにならつて「婦人の人格を無視する夫と家庭を捨てよ」と云ふ叫びに替へて、一旦、家庭を去つた婦人達に向つて「婦人よ家庭に歸れ！」と云ふ言葉が今日の新進婦人論者の主張となつてゐます。

　世界の婦人の歩んだ道は幾曲折を經て、結局、婦人は家庭奴隷から、男子と同等な人間となり、それから今度は婦人は家庭の文字通りの女王であられればならぬ婦人が家庭の女王であり、國民の母であつて、其の義務に忠實であることによつて、婦人自身も男子も子供も幸福、從つて、人類の幸福であると云ふ處迄今日の婦人論は進んで來て居るのでありますが、さて、婦人が名實共に家庭の女王であり、國民の母であるためには、婦人自身に其れだけの資格がなければなりませんそして、其の資格は、今日迄の多くの女學校卒業生のようには、學校を出ると同時には「まア、これからおしやれだ」と云ふやうな態度であつてはなりません。

　幼稚園では兒童が學校へ這入つてから、先生の教へることに注意をあつめたり、又は、同級生と行動を共にすることが出來るやうに其の練習をさせられます。それと同じやうに女學校では生徒が學校を出てから一人で勉强なし修養を積むことが出來るような文字と云ふ道具を與へられ、又はあらゆる方面の學問へ入る入口を教へられます。

　ですから、もし、女學校を出るなり書物を捨てゝしまうならば、長年の間兩親は金を費し、教師が精力を消耗して折角學問の入口迄導いて行つても、其の學問の殿堂へは入らずに入口から歸つて來てしまうと同じで、其れ迄の努力が何にもならないことになります。さう云ふ風にして居て本當に頭腦を錬ることをせず、知識を收得しようともせずに居るならば、そして、昔の女と同じように低級な頭の持主であるならば、新時代の教育を受けたとは云つても矢張り、昔の女と同じように、男に便利な一個の道具、社會上法律上無能者扱ひをされても、何とも云ふことは出來ないでせう。

今日の腐敗しきつた政界に私共婦人が立ち入る必要はありません。又、立ち入りたくもありません。けれども、一國民の生活を處理する使命を持つ政治に、婦人には發言權を與へない、低能者や子供と同樣に婦人には政談をさせない、聞かせないと云ふ法律があることを諸姉は何とお考へになります。そして、其の法律改正の要求に對して議員達がどんな態度で居るかを御存じですか？　婦人に關する事柄が議題に登る度每に「ツヤツポイ問題だからどうとか、こうとか。」まるで茶化して居るではありませんか。

そして、婦人に對する男子のさう云ふ態度は、矢張り、多くの婦人が不眞目で、ツヤツポイ姿態をして男子の歡心を買ふことにつとめたり、甘つたれたりすることが女らしいことであるように思ひ誤まつてゐて、人としての資格や威嚴を備へなければならないと云ふことには無關心で居るからです。どんなに男子が横暴でも無恥でも、本當に目覺めた婦人の數が多くなつて多數の婦人の言葉や行動が不眞目な男子をヒヤツとさせるようになるならば、餘まりに婦人を馬鹿にする今の男子の態度も變らずには居ないでせう。

實力です。實力です。實力さへあるならばあらゆる問題は自然に解決されます。解決することが出來ますけれども、女學校は其の實力を養成する單なる準備であつて、決して、實力を養成したのでも、又、完成したのでも無いことを私は此處に繰り返へして置きます。

私の知人に一人の洋服裁縫師があります。彼は十三の時に仕立屋の小僧になつたので、全く、無學でありますが、米國へ行つて技術を研いて來て日本人としては本當にめづらしい冴へた腕を持つてゐます。實力養成の一例として彼の談話は價値あるものと思ひますから次に擧げて見ます。

「多くの裁縫師は渡米すると大抵は經育の裁縫學校へ行つて免狀を取つて來て開業しますが、私は學校へ行くだけの暇と金を實地研究に費しました。裁縫學校から發行される雜誌は勿論每月とりますし、最新の道具はいつも金を惜しまずに買ひました。其の雜誌を二十有餘年續けて見てゐますが、御承知の通り私は文盲で

すから字は讀めませんが、圖解は明瞭に讀むことが出來ます。決して、怠らずに雜誌を利用して居ます。雜誌は全部揃へて持つてゐますが、十年前の雜誌を見ると其の幼稚なのに驚くし、又、自分の仕事のへまであつたことが可笑しくなります。ですから、私は學校へは行かなかつたけれども、少しも注意を怠らなかつたゝめに裁縫術に關しては世界の優秀な裁縫師にも後れをとらないつもりです。其れにひきかへ、立派な學校を出た人でも、學校を卒業して居ると云ふことに安心して居ると、其の後の技術の進歩には氣付ずに居るから、十年前の卒業生は十年古い裁縫師です。』と云つて笑つて居ました。

私は其れを非常な興味をもつて聞いてゐました。なぜなら、其れは技術に關して許りでなく、一般知識に關しても亦、時代の進歩に關しても同じことだからです。一通りの教育を受けた方は、少しも教育されてゐない年老つた婦人の頭の古いことを嘲笑ひになるでせう。けれども、日に月に進歩して止まない世の中に生きてゐて、そして、自分が一通りの教育を受けたことに安心して居ると、やがては自分が笑はれる番になります。

私は恥しいことですが、諸嬢のやうに學校生活たしたことがありません。十二の時に小學校の四年を卒業するとそれきり學校へは行かれなくなりました。私がもつと行きたいと泣いて賴んでも、『子供心であんなことを云ふので今に直き忘れる』などと父母は話し合つてゐて取り合つて呉れませんでした。私は家兄の子供の守りをしなければならないので、子供を背負つては校庭の土手の外に佇んで、校舍の中の子供達を樂園に遊ぶ幸福な子供と思つて眺めてゐました。窓をもれて來る先生の聲を天使の聲のやうに思つて聞いてゐました。ですから、ツイ此の頃迄も、多くの女生徒さん達が机を並べて先生の御講義を聞いて居られるのを又は校庭で嬉々として遊んで居られるのを見ると、私の胸は何となしに迫まつて來て、涙がにじみ出て來ました。それは女生徒さん達の幸福な身の上を喜ぶのか、それとも其の年頃であつた自分が可哀想なのか、嬉しいのか、うらやましいのか、自分にもわけの分らない[illegible]

で胸がふさがつてしまうのです。

本を讀みたい〳〵と云ふ氣持ちがあふれて居ながらいろんなことに厭迫されたり、引きづり廻はされたりして居るうちに二十四五歳になつて了まいました。結婚してから夫の同情があつたものですから、始めてしみ〴〵書物に親しむようになりました。そして、私は、どうかして普通の婦人が知つて居るだけのことは知るようになりたい〳〵と常に其れ許り心掛けて居ました。半生を無駄に過した自分が人様と同じようになるには其れからの毎日々々を有益に利用しなければならない。家事に一日の全部を費してしまつたのでは一生たつても普通に教育をお受けになつた婦人とお話することも出來るようにはならない、と云ふ氣持ちが一杯あるものですから、一日のうちに何かしら新しいことを頭の中へ入れないと、其の日は何だか損をしたような、損をしない迄も儲けが少しもなかつたやうな氣がして私は非常に不愉快でした。それで、家事の合間々々に五分間でも十分間でも書物を手にすることを怠らないで居ました。

其のうちに少しづつ〳〵世間と云ふものが見へて來ましたし、過去及び現在の婦人の位置も了解出來て來ましたし、又、婦人としての生活の理想と云ふようなものも出來て來ました。正式に教育されたのでありませんから、女學校は愚か、小學校の子供の知つて居ることで私の知らないものが澤山ありますが、併し、其れは私と云ふ一個の人間を造る上に於て、つまり、私の人生觀なるものに何等の影響がありません。つまり其れは人間生活の本義と云ふ立場からは生活の枝葉に屬する事柄なのです。云ひかへれば、女學校を出たゞけでは實際生活に役に立つ何物もまだまとまつてゐないのです。ですから、女學校を卒業なさつてから茶湯、生花、おしやれ、或ひは其の他の遊藝や手藝にたづさはりなさるのを私は惡いとは申しませんが其れ等は生活の枝葉に屬する事柄であるから、其れ等に全精力を費してしまつてはならない。人として女性としての有資格者になるために主もなる時間を費して、餘まつた時間があつたなら其の時間を其れ等の事柄にお使ひなさいと云ひたいのです。人間の努力や頭腦の大き

さが無限なものであるならば、何でもかでもを頭の中へ詰め込んで置けば、其れは調法なものに相違ありませんが、さう何もかも取り入れられるものではありませんから、生活の枝葉の事柄に精力を費すよりも、生活の本義を知るために精力を使つて、餘まつた精力を枝葉の事柄に費すのが順序です。

でないと、婦人はいつ迄も〳〵向上することが出來ません。昔のまゝの家庭に於ては男子に便利な一個の道具、社會上法律上の低能者又は子供と同等な取り扱ひを受けて居なければなりません。

男子の玩弄物となることがおいやならば、其の人格を無視された三從の掟に縛られて居ることを人としての恥辱とお考へになるならば、流行の半ゑりをお買ひになる金で書物を、おしやれに費す時間を讀書に、費して下さい。

諸嬢御自身の將來のため許りでなく、全國の、否、世界の同性の向上のため、人類の幸福のため、實力の養成をひたすらに御すゝめ致します。

若き婦人修養の目標

法律の知識にどんなに精通して居ても、もし其の人が冷酷無情な人であるならば彼は善き判事でも有力な辯護士でもありません。倫理學の泰斗でも、もし、彼が人情に薄い人であるならば、倫理に關する彼の知識は生きてゐません。從つて、彼は道德家ではありません。

これに反して、法律の條文のたつた一行をも心得て居なくとも、倫理學の端かけをも知らなくとも、もし

人情に厚い人ならば彼は決して法律を犯すやうなこともなく、道徳律に反するやうな行動に出る筈がありません。何故なら、法律と云ひ、道徳と云ひ、要するに他人に迷惑となるやうな行爲を禁じたものに過ぎないそして、人情に厚い人は他人に迷惑をかけるやうなことを決してしません。

私の一人の友人が「私は民法も刑法も警察法も何にも知らないけれども、併し、私は法律に觸れたことがない。なぜなら、私は人に自分の頭を毆ぐられるのが嫌だから、人の頭を毆るやうなことはしない。それだけ心得て居ればそれで充分だ」と云ひましたが、成程我が身をつねつて人の痛さを知る、と云ふだけの人情があれば、法律にも道徳律にも觸れはしないのです。

其處で、千卷萬卷の書物を讀んで、法學に倫理學に精通してゐて、そして、心が冷酷であるよりも、たとひ、書物を讀まず、法學又は倫理學の何であるかさへも知らなくとも人情に厚ければ、其の方が人間としてより大なる價値がある。則ち人格が高いと云ふことになります。と云つて、書物を讀むことを餘計なことだと云ふのでは決してありませんが、書物を讀んで廣く知識を蓄へることは、其の人情を働かせる手段に過ぎない、だから本末を顚倒してはならないと云ひたいのです。

今から二十年も前のことですが、非常に熱し易い私の性質を見てとつた私の夫は「お前の其の感情をより有効に働かせるためにお前は勉強しなさい、知識と云ふ道具を先づ造りなさい」と云つて呉れましたが、私は夫の其の言葉を片時も忘れずに、家事の合間々々に勉強したことは「高等女學校卒業生に與ふ」のうちにも書いて置きました。けれども、知識を得るために家庭内を不愉快にするやうなことはつとめて避けました。つまり、家庭の圓滿と云ふことを最高に置いて知識の獲得に努力してゐました。

今日の婦人に缺けて居るものは實に知識です。男子と比較して婦人の知識は如何にも貧弱です。けれども其の知識を得るために、男子を模倣するために女性としての感情、云ひ直せば愛の生活を無視するやうなことがあつては其の結果は由々しき重大事です。

私共の生活が豊富であるとか、充實してゐるとか云ふのはどう云ふ意味ですか？ 愛し愛される人があることです。空虚な淋しい生活とは何ですか？ 自分を愛して呉れる人も、自分が愛す人もない孤獨な人の生活です。

廣く、長く愛すことは空間的に時間的にそれだけ自分が大きくなつたのです。永遠の命と云ふのは、永遠に人類を愛することの出來る大きな愛情です。釋迦や基督は永遠に人類を愛しました。全人類、永遠の人類を抱擁する程、彼等の愛情は大きいものでした。彼等は道徳家とか、聖人とか云はれゐる處を通り越して、神と云はれ佛と崇められてゐます。そして、さうなつた理由は單純です。彼等の所有して居た人類に對する愛情が大きかつたのです。

技術も、藝術も、智力も私共の生活に無くてならないものであつて、夫等を修得することが大切であるのは申すまでもありませんが、併し夫等は人間生活の單なる一部であつて、私共の生活の全部を覆ひ、私共に希望の光りと生命の滋味を與へるものは愛情です。

さて、其處で、其の愛情を豊富にし大きくして行くに就て、つまり、愛情の大きさを一寸よりも二寸に、二寸よりも三寸に伸し、一個人よりも一家に、一家よりも一國に、一國よりも全人類に及ぼすような大きな愛情となし、一大人格を造り上げるにはどうしたならばよいのでせう。

私共が裁縫術を修得するには幾枚も幾枚もの着物を手がけなければなりません。私が裁縫を習ひ始めた時に、私の母は百枚縫へばどうやら着物らしいものが出來るやうになると申しました。ピアノを一通り彈くやうになるには毎日四五時間づつ五六年の練習が必要だとピアノの先生は申しました。(其の先の練習にはきりがありませんが) それと同じで、とにかく、人格者と云はれるだけの愛情の所有者となるには矢張りその練習が必要です。そして、その練習所は此處彼處と云つて一定の場所があるのではなく、又練習のために使ふ材料はあれこれと云つて定まつては居ません。

私共の生活そのものが練習の材料なのです。つまり人生と云ふ川の流れの中で揉まれ揉まれて私共の人格

は築き上げられる、則ち、人を思ひやる人情が養はれるのです。與へられた位置を避けるのでなく、其處から逃れるのでなく、あらゆる苦痛と困難が人格養成の材料であると心得て、それと戰つて居るうちに知らず〳〵のうちに私共の人格は向上して行くと思ひます。

要するに多くの婦人達が人間生活の本義には無關心で、生活の末葉の事柄に計り精力を費して居る間は到底、男子の奴隷であるし、又、今日の此の婦人の位置に憤慨するのはよしとして、併し、女性の本領である愛の生活を無視し男子を模倣しての生活の道を選むならば、人類は愛の貧血症に罹らねばなりません。

あらゆる生命のために太陽の熱と光りが必要缺くべからざるものであると同じように、人生には愛情の熱と光りが必要です。そして、其の愛情は男子によりも女性に豐富に授けられてあります。此の點に婦人が自覺して、愛の生活を基礎として技術を研き智力の獲得に努力して、家庭の女王として國民の母としての有資格者になるならば、要求せずとも婦人の社會上の位置は改善され、家庭に於て男子が奴隷扱ひにしたくも出來なくなりませう、女性の特質愛情の養成と云ふことをお忘れにならないことを私は愛する同性の方達に勧す、め致します。

智的婦人の配偶

比較的智力的な少數の婦人が若い男を配偶として選んだ動機は何であるかは本人達に聞いて見なければ本當の處は分りませんが、私の想像する處では先づ第一に、世間並みに結婚する資格が出來た相當の年輩の男

は、頭が余まり固くなつてゐて、そして其の頭には婦人を一個の人間として尊敬しないのみならず、人間として多くの點に於て缺點があるので、それが嫌やなのだろうと思ひます。所謂腕力や金力を身にかけて居るような男の態度には何としても我慢出來ないのだろうと思ひます。

相當の年輩に達した男は大抵の場合ひ既でに窯の中を通つて來た茶碗で、其れがイビツであらうがショッコであらうが、どうすることも出來ない。其のまゝのかたちで我慢しなければなりませんが、其處へ行くと若い男の頭はまだ柔かで粘土のような處がありますから、これから、どう云ふかたちにでも仕上げて行く可能性を多分に持つて居ます。さう云ふ處に第一の魅惑があつて、そして、其れには、又、若い男の容貌の美が彼女達の精錬された美感を滿足させると云ふことも與つて力あるのだろうと思ひます。人としての自覺を持つ婦人が嫌ふのは男の年ではなく、いやに傲慢にかたまつた頭が我慢出來ないのですから、また、頭が柔かで悪い習慣は捨て正しきに從ふと云ふ態度を持つてゐる男ならばどんなに年をとつてゐても喜んで夫にするだろうと思ひます。

けれども、夫の方が年若であるのは決して幸福ではありません。何故なら、生理的に云つても女の方が男より早く成熟します。そして、年をとつてからも男よりは遙かに早く女の方が性的作用が終止することは本誌二月號に書いて置きました。ですから、夫婦の性的の調和を一生涯保つには妻の方が餘程若くなければなりません。双方がまだ若い間は目立たないでせうが老年期に入ろうとする時分になると其處に非常な不調和が出來て來ます。

ですから、生涯を通しての幸福な結婚はどうしても男が年上でなければならないのですが、男が頑迷で女に對していつ迄も傲慢な態度を續けてゐるならば、これからの若い女性は年上の男を嫌ひ、自分の自由になる若い男許りを夫に選むようになりませう。そして永久的に幸福な結婚者が少なくなり、其れだけ社會の健實性が失はれるでせう。女子教育の改善が必要なのは勿論ですが、男子の教育法も決して今日のまゝであつ

てはならないことを當局者は考へなければならないと思ひます。

年下の夫と云ふ時に、私はいつもジヨージ、エリオツトを思ひ起します。女史が再婚した時には女史は六十二歳でありました。そして、夫になつたクロス氏は女史の子息位ひの年でした。これはクロス氏が女史を神のやうに尊敬して居た結果成立した結婚でした。でジヨージ、エリオットがボデション夫人に送つた手紙のうちに、女史の結婚觀がありますから、次に擧げて見ます。

「私の夫クロスの家庭は最高な優しさをもつて私を歡迎して呉れます。私は私の生活がもう終つてしまつたと考へてゐました。私の居間の次の室には私のために書棚が用意してあると私は思つて居ました。ですから私の今回の結婚は實に身分不相應な奇蹟的な幸福であります。遙か下の方を眺めますならば私の生活にも悲しみの川が流れてゐます。併しながら、永生きをしたものは皆さう云ふ經驗を持たればなりますまい。それでも私は私のために再び開かれた生活を喜ぶことが出來ます。一人で淋しい生活を送つて居るよりは結婚が私をより善くより多く愛すべき人間となしませう。完全な愛の賜物に對して絶へず感謝して居ることは、此の面倒の多い浮世に於て人間のために存在する凡ての善を光らせることになりませう。」

又、或る外の場所に於ては『誰かに絶對に愛され、又誰かを絶對に愛して居なければならないと云ふのが私の性質には絶對に必要です。』と云つてゐます。

新刊

ピヤノの彈き方

ヨーゼフ、ホフマン著
牛山充譯
近代文明社發行

本書の內容は

第一編　ピアノの彈き方

第一章洋琴(ピアノ)及び其演奏者。第二章一般的法則。第三章正確なる觸鍵(タッチ)と技術(テクニック)。第四章制音機(ペダル)の用法。第五章「本式」の演奏。第六章ルービンシュタイン先生の敎へ方。

第二編　ピアノ問答

第一章技術。第二章樂器。第三章制音機。第四章練習。第五章記號及び術語。第六章或る種の曲と作曲家とに就いて。第七章練習と練習曲。第八章裝飾音。第九章分節。第十章ルパート。第十一章概念(コンセプション)。第十二章實例の効果。第十三章理論。第十四章暗記。第十五章競奏。第十六章伴奏。第十七章移調。第十八章公衆のための演奏。第十九章ピアノ其物に就いて。第二十章低級なる音樂。第二十一章倫理的方面。第二十二章高度(ピッチ)及びこれに類する問題。第二十三章學習者の年齡。第二十四章教師稽古及び方法。第二十五章雜問。

等であつて、外に、正しき手の位置、誤まれる八音の彈き方、正しき八音の彈き方、誤れる小指の位置、正しき小指の位置、誤れる採指の位置、正しき採指の位置、正しき足の位置、誤れる足の位置等の寫眞及びアントン、ルービンシュタインの肖像と同氏の敎へ方の寫眞があります。洋琴演奏者の缺くべからざる有益な書であります。(四六版三二三頁。定價金二圓三十錢
東京神田區中猿樂町十七。振替東京五八五八六番)

病院の窓

原田琴子

★

病院のベッドより
朝に夜にながめやる
窓の水仙
二日經て花咲き
七日經て
けふは萎む
細長き葉は黄ばみ
蒼白き花びらは
うなだれしまゝ默したり
如月晴れし空を映す玻璃のまど
まどの外にはけふもまた
ゆたかに雲のとぶが見ゆ

眠りがたくてものおもひ
ベッドの上にひとりふし
まどの外なる空を見る

★

さびしきは
小夜ふかく
ベッドの上にめざめゐて
ゆくりなくきゝし
チャルメラの笛の音
まどかけに仄かにうつる月のかげ
眞夜かしら光は淡く
まどべの

うなだれし
フレヂアの花をてらしたり
あはれ今宵もたゞひとり
病院のしろきベツドに眠らむ
げにさびしきものは
かのチヤルメラの音か
月かげか
また
けふ一日訪ふ人のなかりしかば
打なげくわがこゝろか

★

外には雨ぞふりしきる
ひとりいねたる病院の
ましろき壁の室
十六燭の電燈の
うらさびしさよ
やゝ熱ばみし手をときて
あふぎみる天井
まぼろしはちら〳〵と
宙に舞ふ
紅き虹
青き虹
紫の花
白き花
さてはこひしき人の像
あはれそは束の間の幻
打みれば
花瓶の花は默し
まどかけの紐はゆれもせず
とのもにはなほ
雨ぞふりしきる



教育社會學講話

社會組織

學校に於ける同趣味の者の群

同趣味の者が親密になつて結合した群が學校に於て優勢であることは勿論です。そして、又、かやうな親密な群に於て、人格が特別の力をもつてゐると云ふことも事實です。で、これに關する實際問題は教師が生徒に對して適用する政策の問題です。普通の小學校に於て、各生徒の仕事の大部分は各生徒の自身の努力であることは云ふ迄もありません。けれども大抵の兒童達は團體的に努力することに、より多くの興味を持つて居るものであると云ふ事實を認めねばなりません。教師が各生徒に別々に割當てた學課を各生徒が單獨の努力で仕終はせたと教師は考へてゐても、實は生徒同志手

伴ひ合つてしてゐる、つまり團體の力でしてゐたと云ふ場合ひもあります。

生徒同志の團體的行爲に對する興味は非常に强いと云ふことが認められた結果、米國の新式な學校に於ては、たとへば、合唱とか、舞踏とか、劇とか、學校新聞の發行とか、又は賄(まかない)とか、コーフイー店の經營とか云ふものを許してゐます。かような事柄に必要な共働的活動は生徒間の親密の度を增しますから、指導よろしきを得れば非常なる敎育的價値があると云はれてゐます。けれども、時によると思はぬ弊害が伴つたり、危險を釀す場合ひがありますから、嚴密な注意が必要です。つまり、黨派々々に別れて黨派心が出來たなどすると學校は本當に悲しむべき狀態になります。ですからさう云ふ黨派心が出來ないように、全體の生徒の間を圓滿にして行くのが敎師の任であります。

黨派を造つてゐる生徒は其の黨派内にあつては善良でも、黨派外の生徒に對しては決して善意を持つてゐないと云ふのが常ですから、さう云ふ傾向を喰ひ止め、生徒全

體が同じ利益を受けるように工夫するのが教師の任務であります。

其の點に注意しさへするならば、生徒の團結は有益であります。團體生活と云ふことは今日の兒童にとつては到底避けることの出來ないものとなつてゐます。其れを無理に兒童に拒むならば、兒童の心の健全な發達を害します。同趣味の兒童の集まりと云ふものは兒童にとつては生命であります。空氣と同じもので、兒童はどうしても其の中に居なければなりません。年とつた人は、兒童のように、さう云ふような集合的生活を必要としません。なぜなら、彼等は間接の手段で智識の食物を攝取して居ますから。

一人の兒童が始めて入學したとします。彼は教室のうちに座を與へられ、書物を取り出し、そして、教師の質問に答へます。それだけで、何にも不都合はないように一見考へられます。けれども、事實はさうでありません。なぜなら、それは形式だけです。人間には殊に、兒童には形式以外のものが必要です。學課以外に生徒間の交際、

つまり、氣の合つた友達がなければなりません。たとへば、お互ひに問ふたり問はれたり、笑つたり遊んだり、云ひかへれば、學校の形式以外に自然に出來て來る不形式な自由なものがなければならないのです。もし、さう云ふ自由なくつろいだ氣持ちがないならば學校は兒童のためには窮屈で耐へきれないでせう。

何等はつきりした原因もないのに泣き出したりするのはさう云ふ場合ひなのです。さう云ふ子供は重い胸を持つて歸宅し、そして、學校を嫌ひます。これに反して、もし、仲善しの友達が一人でも二人でも同級生の中にあるならば、彼は授業の始まる迄は話したり笑つたりして、授業時間に於ても、其の友達の親しい目つきや笑顔を見て自分を了解して呉れる友達が其處にある事を感じて氣持ちが自由になり、學校を好くようになります。

もし、教師が教室内の面倒を避けようとするならば、仲の惡い子供等を並べて座はらせないようにする必要があります。最初並べて座らせられた二人の子供がお互ひの

惡い處計りを探し合ひ、そして、普通の場合ならば少しも心にかけないようなことが非常に誇張されて教師を困らせる、けれども、座を取りかへて外の子供と並べることによつて、前には難かしかつた二人共が善良になつて、決して、教師に面倒をかけなくなつたと云ふ例もあります。

又、或る學校では、全生徒が二派になつてゐました。けれども、教師は其の全生徒をうまく率ひて、全生徒を一つにしたり、又は、自分が一方の派の首領になつたり、時には、反對の方の首領になつたりして其の二派の間は親密でありました。けれども或る年に教師か變りました。そして、新しく來た教師は其の二派を一所にしてしまいました。すると絕へず、悶着が起り、ツイには南北の二派が再び出來上がつて、烈しい爭ひが起つて學校を困らせたと云ふ例もあります。

寄宿學校

寄宿學校に送られた娘が、最初のうちはホームシツクにかゝると云ふのはよくある

ことです。此の場合ひに親しい友達を送らせると云ふことが最善な救濟法です。つまり、彼女がホームシックを起すと云ふのは、自分の家族と云ふ親しい集合生活を離れて、其れに代る親しい集合的生活がないからです。ですから、此の場合ひ、彼女の孤獨な狀態の期間を出來るだけ短くするのが敎師の義務です。敎師は其の娘をいろ〳〵の組みに加へて見る必要があります。さうするならば、彼女はいろ〳〵な娘と接觸する機會を得て、そして自然、自由な會話や交際をするようになります。

今迄に見も知らなかつた小女達を一つにして、そして、集合的生活を送らせると云ふことは非常に困難な仕事であるに相違ありません。いろ〳〵の錯綜した過程を經なければならないでせう。少なくとも、小女達の間に幾分の滿足がなくてはなりません。もし、さうでなければ、小女達が折角顏を合せても、其れは唯形式の會合で終つてしまいます。其處で、凡ての小女達に滿足を感じさせるように、小女達の間の調和を計るのは敎師の任務でありますが、最初のうちは矢張り唱歌とかバスケットボールとか

テニスとか云ふような遊戯で少女達の間の親密を計るのが、彼女達の間の調節を計る第一歩であります。

生徒が學校へ來た始めの週間から學科を課する必要はありません。始めの一週間位ひは唯、生徒間の親密を計ることに努力するのが最善な方法です。ホームシックを避けるため、孤立の狀態を脫するため、出來るだけ多くの友達を造る機會を與へるのが利益です。

米國の大きな學校では學生を先づ十二人か二十人位ひづゝの群に分けて、そして其の一團の顧問として一人の敎師が其れに加へられます。其の敎師は其の一團の各員と出來るだけ多く接觸して、そして、其の一團の發達を計る義務があります。米國の大學に於ては、今より百年も前から、前述のような集團を造つてゐました。大抵の場合ひ敎授の賛成を經て造られてゐたのです。米國の中學校に於ては、又、二十世紀の始め頃から、あちこちに、さう云ふ集團が造られるようになりました。併し、學校側で

は、それを禁ずる方針を取りました。と云ふのは、團體を造つてゐる學生は、會員外の者に對して專横な態度をするようになつたからです。いづれにしろ何百何千と云ふ寄宿生を有してゐる學校に於ては、少數の學生の團體生活が學生自身の相互のためにに必要とされてゐます。

團體以外の同趣味の者の會合

今迄に述べて來た同趣味の者の集團は子供か又は青年の集團でありました。中年、又は老年者は大抵前に述べて來たような集團を造りません。彼等は少年又は青年のように、特別にさう云ふ意味の集團を造る必要を認めません。其の時々の必要に應じて會合することによつて滿足することが出來ます。時には、又、さう云ふ會合を盛大なる目的のために利用することもあります。

年をとつて來ると子供の時のような親しい友情は出來ません。既でに、さう云ふことの必要も資格も無くなつてゐるのです。其の代り年をとつて來るといろ〳〵の種類

の人間と交際するようになります。勿論其の交際する人々のうちには知己もあれば未知な人もありませう。そして、手輕く交際します。けれども、其の手輕な交際から意見の交換となり、理想や興味が其處から發生します。

旅商人が其の最も好き例です。彼等は子供のように、小さくて永久的なそしていつも同じ顔ぶれの集團は造りません。彼等はフイ〳〵と出逢ふ人々と親しくなります。其の人々のうちには以前決して逢つたこともない人が居ませうし、又、其の後に於て決して再び逢ふ機會が無さそうな人もありませう。けれども、さう云ふような親しみを行く先き〳〵で幾人かの人と造り得る腕を持つた人が旅商人として成功した人であります。

中年者の集團は、又、重大なる仕事を爲すために構成され、そして、其の作用は全く其の仕事を仕遂るためであることがあります。其の仕事が世界的であつて、同志の者と通信し合ひ、同情し合ふことによつて共同的行動をとることもあります。一體、

同情と云ふものは、人々が笑つたり話したりして居るうちに沸き、そして、人々の心を結び付けます。ですから呑んだり、食べたり、一緒に芝居へ行つたりすることは外面的には單なる娯樂でありますが、併しさう云ふ樂しみのための會合が、重大なる事柄の宣傳の基礎としての同情的關係を造ることになります。

教育への適用

商業並びに政治に於てと同じく、教育に於ても、同情的則ち同趣味のものゝ集團は重大なる任務を負ふて居ります。人は、商人から唯目錄を送られたゞけでは決して買はないものも、商人が品物を持つて來るならば買ふと云ふ場合ひが度々あります。それと同じ道理で、子供も唯單に書物を讀んだゞけでは覺へないものも、教師から直接に教へられるならば、感受性をより多く働かせてよく覺へると云ふことがあります。ですから、商人が注文を取つて歩く必要があると同じように、教育には教師がどうしても必要です。

本や雜誌や講義錄は、直接生徒に敎へる敎師には叶はないものです。其れは丁度商品の目錄を送つたり通信販賣をする商人は到底直接お客に接する商人には叶はないと同じです。『自分一人で考へたのではどうしても分らないものが先生に說明されると直ぐ分る。』と云ふのは生徒がよく云ふことです。

殊に、倫理や美學上の眞理は、同情的な人格に接して始めて學び得るものです。倫理や美學上の眞理は、人の生活に實際に活躍して居るのを見て始めて悟れるものだからです。生徒は他人の生活を見て、其等の眞理が自分の生活にも活躍して居るのを發見するからです。

敎育上殆んど無くてならない一つの條件は、敎育者としての位置にある人は生徒のうちに同情的集團を造り得る人でなければならないと云ふことです。ですから、敎育者はあらゆる人と同情的關係を造り得る資格が必要なのです。交際を圓滿にするために充分な同情と親密さをもつてしないならば、敎師のすることは單なるおせつかいか

乃至は探偵のようになつてしまいます。或ひは、又、唯單に一定の數の兒童を一教室に集めるだけで、兒童等の間の調和を計らないならば、自然に兒童等が親密になるには時間がかゝるし、其のうちには衝突の方が先きに起ると云ふようなことになります。

役人ならば部下との調和が難しいと思ふ時には、成るべく其の部下との接觸を避けゐても事は濟みます。けれども、教師はさう云ふわけには行きません。教場内に於て、各生徒との融和は絶對に必要です。もし、教師と生徒との間に同情的關係が生れないならば、教師の仕事も生徒の仕事も單なる機械的のものになつてしまいます。そして、これは教育上大禁物です。

學校に於ける生徒の同趣味の者の小さい集團、及び、毎日顔を合せねばならぬ者の間に起る反動は大いに研究を要する問題であります。ですから、社會學乃至は社會心理の研究に心を傾けて居る人が此の問題に心を傾けらるゝことは有益であります。こ

れは、又、凡ての組織の根本的材料であり、興味ある問題です。これを詳細に研究して行くならば、數へると云ふ職務以外の職業に迄も延長し得るものです。殊に、同趣味の小女の群は研究の好材料です。そして、この方面の研究は何處からも、まだ、發表されてありません。

編輯の後

本誌三四頁に書きました洋服裁縫師と云ふのは鬼頭金次郎氏と云ふ方で去年米國から歸朝されたのです。思ひ廻せばもう二十何年か前のことになります。私がまだ山田と結婚する前のことでした。私はサンフランシスコの或る裁縫學校へ通つて居たのですが、學校は余まり冗費が多いので、仕立屋へ通つて生活費を稼ぎながら傍ら裁縫術を學ばうと思つて、働き口を求めてあちこち歩き廻つてゐました。どうも思ふような口がないので其の日はあきらめて宿所へ歸へろうとした時に不圖目に付いたのが鬼頭氏の働いて居られるドレスメーカーの窓でした。其處に日本人が働いて居ると云ふことは夢にも思はずにドーアをノックして見ると、それに應じて出て來たのは日本人のボーイでした。思ひがけぬ同國人の顏を見て私が來意を告げると其のボーイが『アーさうですか、此のうちには鬼頭さんと云ふ腕の達者な人が主人の信任を得て幾人かの手下を使つて働いて居なさるから、鬼頭さんから主人に話してお貰ひになるなら直ぐに話はまとまりませう。』と云つて與れました。それ迄に一面識もない、フラリと尋ねて行つた私を信じて鬼頭さんは其處の主人と私の間を取り結んで下さいました。二十年來杳として便りを聞かなかつた其の鬼頭さんが不圖尋ねて來て下さいました。二十有餘年目かで出逢つた舊友と往時を語ることは人生に於ける樂しみの一ッであるに相違ありません

同氏は在米二十五六年の間米國一流の裁縫師に師事して文字通りに裁縫術を研究してゐました。男子の洋服でも婦人の洋服でも本當の恰好の洋服を御希望の方にはいつでも喜んで御紹介致します。

新刊

詩集 青みゆく月

水谷まさる著
近代文明社発行

本書は婦人と少女に寄する詩集であります、纖細なる詩情と優雅にして魅力ある詞句とを持つ著者は既に婦人少女の間に限りなき憧憬者を持つてゐます。そして、今や著者は第二の詩集を出すに當つて進んでこれを婦人と少女に捧げようと云つてゐます。装幀は武井武雄氏の手になるものであつて見るからに胸がスッキリすふような美しい書物です。(四六版一六七頁。定價金一圓五十錢。東京神田區中猿樂町十七。振替東京五八五八六番)

詩集 大地の囁き

岩井信實著
大阪 石塚松雲堂発行

新刊

本書の内容は、二本のレール、迸る〻光、自分よ、落された種子、汚れ行く魂、土に抱かれて、虐げられし生命、強ひられた假面、二行詩、等であつて全編を通し、著者の眞純な生命が躍動してゐます。

私には、詩は本當には分りません。けれども、私は詩とは眞理であつて、しかも、其の眞理は論理と云ふ細工で組み立てたものでなく、全となつて自然に生れたもの、同時に、美と云ふ純な着物を着てゐる一個の人格であると思つてゐます。

ですから、自然で純で眞面目な生活の現れであれば私には凡てのものが美しく見へます。其の意味で、此の詩集の中に集められてあるものは子供に對する絶大なる愛、生命、美、其のものでありますので、大方に推奨すべき好書であると信じます。(四六版二二〇頁。定價金一圓五十錢。大阪市東區本町四丁目四番地石塚松雲堂振替大阪一三六七五番)

本誌定價表

册數	定價	送料
一册	金二十五錢	送料五厘
六册	前金 金壹圓四十錢	（送料共）
十二册	前金 金貳圓七十錢	（送料共）

[illegible]誌代及郵税は前金の事[illegible]御送金の際に振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと[illegible]郵券代用は五厘切手にて一割増[illegible]廣告は御照會次第御相談いたします

大正十一年三月二十三日印刷納本

大正十一年四月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一

編輯兼發行人　山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七

印刷人　大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一

發行所　婦人と新社會社

振替東京五三六八八

山田わか著譯書目

社會に額づく女　（定價二圓三十錢）　東京麹町區平河町六ノ一　耕文堂發行

女　（マグダレン・マルクス原著）　（定價二圓八十錢）　東京麹町區平河町六ノ一　耕文堂發行

若き愛と智の眼覺　（定價一圓二十錢）　東京牛込區新小川町三ノ十九　日本社

婦人の解放と性的敎育　（定價七十錢）　本鄕區湯島天神町一ノ八二　東洋出版社發行

再版 戀愛の社會的意義　（定價二圓）　東京市四谷區南伊賀町四一　婦人と新社會社

女・人・母　（定價一圓七十五錢）　東京本鄕森木町二丁目　森江書店發行

八時間勞働の理論と實際　（サイパー女史原著）　（定價四十錢）　本鄕區湯島天神町一ノ八二　東洋出版社發行

愛と生活さ　（定價一圓三十錢）　東京神田表神保町六番地　三德社發行

賣笑婦の研究　（マイナー女史原著）　（定價一圓六十五錢）　東京麹町區飯田町一ノ二　天佑社發行


商標登録
TEC
文化生活に……
パラソリア照明器具
美しい硝子
和かい光り
TEC
神奈川縣川崎町
東京電氣株式會社
出張所
東京、大阪、門司、名古屋、仙臺、札幌、大連、上海、福岡、金澤、臺北、京城



博覧會と三越◆◆

博覧會のお土産品は
三越の東京名物賣場

三越の六階に東京名物賣場があります
博覧會は見る處、三越は東京土産を買ふ
處で御座います、それに三越の四月の賣
出しは、東京の花と稱せられ、品が良く
價が廉いので東京名物になつて居ります

●三越の四月●
◆新裂見切反物賣出（一日より）◆[illegible]國現代[illegible]展覽會（[illegible]日より）
◆美術染織試作展覧會（三日まで）◆五月人形陳列（[illegible]日より）
◆洋傘陳列（一日より）◆[illegible]陳列（[illegible]日より）
◆單帶陳列（一日より）◆時好[illegible]陳列會（[illegible]日より）
◆單羽織陳列（[illegible]日より）◆[illegible]家具陳列（[illegible]日より）
定休日……十日……二十五日

東京市
駿河町

三越呉服店

